



堺市職労は4月4日に新規採用者歓迎パーティーを開催

仲間とつながり いい仕事をしよう

新入職員みなさん、就職おめでとうございます。
「地域のため、住民のためにいい仕事がしたい」というみなさんの願いは、元気に安心して働くことができる職場があってこそ。先輩たちが築き上げてきた労働条件を、よりよくするために、職場の仲間とつながりあうことが必要です。
大阪自治労連に入って、働きがいのある職場をつくるために、いっしょに力をあわせましょう！



4月3日から各地で組合加入の呼びかけがされています。
(写真は4月3日朝の中之島公会堂前)

市立豊中病院リハビリテーション科の病棟看護師で、昨年11月の豊中市職労の定期大会で執行委員長になった林辻さん。「まわりの役員を頼りながら、ぼちぼちと委員長を務めていきたいです」という林辻さんに、お話をききました。

林辻 照美さん
(市立豊中病院 看護師)



組合員の脈拍をとりながら健康状態をたずねる林辻さん

20歳で豊中病院へ入職しました。はじめの4年間は手術室に配属され必死で仕事を覚ええました。看護学校在学中に先輩から「勉強になるから配属は『手術室』を希望したらいいよ」と言われ、希望の何番目かに「手術室」を書いたら配属されたようで、新採で希望する人はほとんどいないそうです。
寮生活をしていたので、同期の看護師がにぎやかにくつろいでいるのを横目に毎日勉強に追われていました。職場の先輩はめちゃくちゃ厳しくて「人の記憶力は頼りにならないから、何でもメモを取りなさい!」など、よく怒られました。が、現場で直接指導することの大切さを学びました。

大切なのは現場で先輩が後輩をきっちり指導すること
私が新採だったころから「卒後教育」が体系化されてきて、今も勤務時間内に行われています。以前は「1年かけて育てる」というイメージでしたが、今は「1年半かけて育てる」になっています。研修制度は充実されていますが、実際に患者さんやご家族への対応で失敗があれば、それを抱え込まず自らの力で乗り越える力をつけるために、現場で相談や指導をしあえる環境があることが必要です。

「看護」にやりがい
もてる職場めざして

豊中市では、看護師が毎年60人前後退職し、同じ数採用されています。退職者が多いのは、社会全体が「不寛容」になっていること、何よりも「忙しすぎる」ことが、元気に働くことや子育て・介

護しながら働くことができない状況をつくっていると思います。今の看護職場は看護学校で身につけた看護観とは違って、目の前の患者さんへじっくり関わることもがむずかしく、「何でも手早くこなしていくこと」が仕事になっているように思います。これでは、やりがいを持ってません。現場で看護師が育ち、技術を引き継いでいける職場や労働条件をめざして、これからもがんばりたいです。

新入職員そして最近組合に加入されたみなさんへ

仕事をおぼえていく中で、成功も失敗もあると思います。失敗しても必ず次の手立てがあります。それを学んでいくことが成長につながります。やりがいを持って働きつづけるように、ぜひ組合に入ってください。そうすると、色々な仲間になりますよ。



やりがい持って仕事ができる 職場づくりをめざして

豊中市職労 執行委員長